

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 山紀会 グループホーム華
（ユニット名）	2階
所在地 （県・市町村名）	大阪府大阪市西成区千本南1丁目23-28
記入者名 （管理者）	河野 チエ
記入日	平成 19 年 9 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の尊厳を守り、自立支援と家庭的で地域に開かれたホーム作り、出来る限りホームで過ごせるように」を理念とし、地域との繋がりを大切にし利用者、ご家族、職員も笑顔で過ごせるようにと、取り組んでいます。今後はその人らしく、個別な対応がもっと出来ればと考えている。	○	認知症となっても、人として、尊重され、介護される側でなく、出来る力を発揮し認められ、家庭的な生活、地域の一員として、毎日を笑顔を持って、その人らしく生活できるようにと、職員、利用者と共に取り組んでいます
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや廊下に掲示し、利用者、ご家族にも見て頂ける様にしている。問題があれば、サービスや対応に実践される様には取り組んでいる。	○	対応困難事例がある場合、ホームの理念に振り返り、理念に基づいた対応であるように、取り組んでいます。職員間にて、統一されたの援助方針となるように、今後カンファレンス、ケース会議ごとに、理念についての意義、思いをの話し合いの機会を持つよう取り組んでいきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方には運営推進会議で、ご家族には家族会にて、説明している		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事にて顔見知りになった方等と挨拶を交わし地域の美容院の方や、公園にてお年寄りの方とお話したりしている。日常的にお付き合いが出来るように機会を増やすように努めたい。	○	町会の方、近隣美容室の方と、散歩、買い物に際には、挨拶を交わし、お話しする事も増えている。ホーム行事の際には、ご案内し、ホームへも来て頂けるよう取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域町会との繋がりを持ち自治会の案内を頂けている。運営推進会議にて地域行事の案内を頂き地域の一員として、行事に参加し交流に努めている。町会主催の公園掃除にも参加するようにしている。また、町会へ入会されている方も数名おられる。	○	地域の行事への参加に努めているが、参加するだけでなく、地域行事のお手伝いが出来る関係作りに取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方の相談、緊急時の受け入れ体制を図る意識を持ちそれらに向けてまず職員の地域交流・参加への意識作りを行っている。	○	地域の公園掃除への参加を利用者と共に行い始めているが、地域包括支援センターの方との繋がりを深め、地域高齢者の暮らしに役立つことはないかを、今後職員の力を養いながら取り組んで行きたいと考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価実施での意義、評価を運営者、管理者、職員にて理解し、向上の為今年度の改善計画を作成し取り組む。職員全員が今後、意義、目的を理解できるようにしたいと思う。	○	外部評価での、意見改善点を参考に、ホームの改善計画を行っており、利用者へのサービスの向上の為、職員皆が参加し、目的、意義を理解できるよう、評価内容に意識を高めるように、改善計画作りに取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ご家族、利用者の方にも可能な範囲で参加頂き会議メンバーからの意見を受け止め今後の取り組みに反映させる様に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、地域包括センターより、地域の方との勉強会の案内を頂き、参加し地域役割について勉強させて頂いた。今後もそういう機会を作りたい考える。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を、利用されていた方もおられ、成年後見制度事業よりの、研修生もこられており事業について今後詳しく職員にて学ぶ機会を持っていきたいと考えている。また必要と思われる方もおられる為、支援を活用する方向である。	○	成年後見制度、地域権利擁護事業についての勉強会、研修の機会を設け職員の理解を高めるよう取り組んで行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人内部において研修の機会があり、職員の指導に勤めている。事業所内家族関係においても、注意を払い防止に努めているが、ホーム内研修にて職員間でも再認識する機会を設け外部研修にも参加して行きたい。	○	ホーム内勉強会の設定と、外部研修の参加に取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について、利用者の理解は困難となる場合もあるが、家族、利用者との事前面談にも努め説明を行い、理解納得を図るようにしている。		家族との面談となりがちであるが、本人の不安、疑問を尋ね説明するようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、苦情、不満を受けた場合は職員間でも把握するように努めご家族にも伝えている。日ごろの生活についての意見不満等を聞き取りを行う様にし、家族会、運営推進会議にて、議題とし、改善するように努めている。		職員が、不満、意見を聞いた場合は、本人に不満、意見を再度よく聞く機会をつくり、家族へも伝える様にし、他の利用者にも、聞き取りを行い、家族会、運営推進会議にて、報告し、改善策を検討して行くよう努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所だより、収支報告と共に、(個人金銭管理報告、月1回)お便りとして行っている。個人の健康状態等は、適時電話面会にて行っている。職員異動等についても、お便りにて記載、個々、または家族会・食事会等にて行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情、不満を受けた場合は必ず書類にて整理し職員会議に図っている。また家族会、運営推進会議にて、議題とし、改善するように努めている。重要事項説明書に書面にて記載、契約時に説明も行っている。苦情箱設置も行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて、随時意見や提案の機会を設けている。可能な範囲で努力している。	○	会議にて、意見提案の機会を設けるが、参加出来ない職員もあるため事前の意見を収集する機会を、ユニット内でまず作るよう取り組んで行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況、要望に対応できるよう確保に努め、調整を図っている。	○	通院についても、基本は家族としているが、家族や、利用者の身体状況に合わせ、職員の勤務配置調整の確保に努めている。お誕生日についても、利用者の要望に添える為、勤務調整の話し合い、調整を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係作りに配慮し、異動は最小限に抑えている。離職の場合の交代については、新人職員の勤務状態を必ず2ヶ月間は日中の生活より慣れて頂くように配慮している。		環境の変化による、利用者のダメージを考慮し、新入職に関しては、日中の勤務での関係作りを行い、ほぼ、常勤者勤務とし普段から別ユニットと職員利用者の交流を図り、ユニット間異動にも備えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内勉強会、法人内研修・外部研修の年間計画を設け職員スキルアップを図っている。また、資格習得(介護福祉士受験)支援を行っている。(テキスト、テストの配布や勉強会関係)		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者や、大阪市グループホームネットワークにて交流の機会、勉強会の活用及び職場体験(交流)などの受け入れを積極的に行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勉強会等にて、他部署の職員との、親睦会等交流の機会を設け、悩みなどを話す機会を設けている。管理者、主任が、悩みを聞く様努め、介護面にて職員のストレスが大きい場合ユニットの異動等の配慮を行う様にしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年間の職員自己評価表にて、自己を評価し上司評価、面談を行い今後の目標作りに役立てている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接にて、ご本人と話す機会を設け、ご本人の不安を、聴くように努め受けとめるようにしている。	○	入居相談にあたり、家族の悩み、思いを聞く時間が多くなりがちなので、本人自身との時間を多く取り入れるよう取り組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接、見学の際に家族の不安、訴えは聴く機会は必ずつくっており、受け止める様努めている。		通院や、洗濯など、基本は家族対応としているが、家族の意向や、相談により、柔軟に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接、相談の際に、必要とする支援を、考え受け入れを行っている。また在宅での生活が望ましいと判断される時は通所、訪問介護等のサービス利用も促している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安が大きい場合、お試し宿泊も可能とし、利用者、家族に検討する機会も設けており、適時助言、相談している。		空き室状況により、お試し宿泊の対応を可能としている。また、本人のホームへの見学訪問を勧めている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を踏まえ、生活全般に介護される、介護するのではなく、助け合う気持ちを持っていたけように、日々接している。毎日献立、行事の案内を書道の得意とする方に書いて頂く、他の方の衣類のほつれの修繕を得意な方に助けて貰うなどもあり、職員は日々学ばせて頂き、支えあう関係が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を一緒に支えて行けるように、協力を依頼している。喜怒哀楽を共にするケースもあるが、ご家族にその思いを、伝え切れていないケースが多々あると思われる。面会時、3ヶ月ごとのサービス計画経過報告の際には、普段の様子を詳しく伝え、話し合い、理解して頂くように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や誕生日などに、一緒にし食事・外食をしながら過ごす時間を作り協力して頂くなど、関係の維持、関係作りに支援しているが、体調不良時の面会や、通院の協力依頼を行い、利用者の不安の軽減を図っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には、家族ではないが、昔からの知人、近隣の方など、時々面会して下さり、職員が快く受け入れ、お話しする等心がけ、訪問して頂きやすい関係作りに努めている。お正月には年賀状を出して頂けるように、働きかけている。また、行きつけの美容院等にも、近隣であれば、行って頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の気の合う仲間作り、孤立させないように努め、自然な助け合いの関係も出来ているので、見守っている。不安を訴える方があれば、利用者同士で、慰め合う関係も出来支え合いが見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから入所、入院された方には数名の職員で一度は面会に行くようにし、亡くなった方については、可能な範囲であれば、近況の法要時に一度は伺う等している。長期入院の方について、面会の機会を継続させたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、日々に会話等関わりの中より、汲み取り、把握に努め、必要であれば、ご本人に確認を行っている。また、家族よりの情報収集を行っている。困難な場合は、職員間で、話し合いご本人に添えるように、検討しているが、センター方式の一部を利用し、本人の思い、暮らしに希望、意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に家族による、情報収集、ご本人よりの情報収集を、生活歴シートにて行っている。これまでのサービス利用の経過についても、同じく入居時に行い、把握に努めている。入居生活の中収集できる事も多く、コミュニケーションを、図って把握に努めているが、共有出来ていない部分も多々ある為生活歴シートに記載を残し共有する。	○	入居後の生活内で得た情報を、シートへ記載し、職員間での共有を図るよう取り組む。家族との交流を増やし情報の共有を図るよう取り組む。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別生活パターンシートを使用、記載し、個別の生活状況、健康面の伝達に努め、残存能力を把握し、サービス計画に活かすようにしている。今後、定期的に心身の状況の記録の見直しを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成、見直しの際、事故問題が浮上した場合、カンファレンスを行い、職員の意見を反映、介護計画に活かすようにしている。基本は3ヶ月ごとに、ご本人家族に意見確認、要望を反映させ同意を頂いている。訪問看護・主治医の生活での、指導も含め、計画書に反映させるように、努め、職員全員が参加出来る機会を作りたい。	○	本人、家族をふまえ、定期的な話し合いの機会を設け、主治医や訪問看護師の医療面での、指導を計画書に随時反映させ計画作成に取り組んで行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間(3ヶ月・6ヶ月)の見直し、状態の変化が起きた場合には、職員にて、話し合いサービス内容の見直し課題の設定を行っている。ご本人家族には、説明と、確認を行い、実施している。期間ごとの、介護計画の目標、サービス内容の支援経過・評価表も、モニタリングとして、記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別生活シートに日々の様子、実施内容、気づき、を記載、日中、準夜、夜間の様子、サービス計画実施状況、観察記録、申し送りを記載し情報の共有を図るようにし、各自変化を把握するように努め、介護支援経過評価表記載にて、介護計画の見直しに、活かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設期間が浅く、ショートステイは実施していない。医療連携体制にて2週間に1回の往診体制、1週間1回訪問看護師により、健康管理、指示を受け、緊急時は、当法人の協力病院により、訪問看護同様、24時間体制にて、連携が可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの利用は、合同行事での、レクリエーション活動支援。生活保護を受けておられる方には、民生委員との繋がりがあり、運営推進会議にも参加して頂いている。消防所よりの指導のもと、火災などの対策指導にて、利用者参加のもと訓練を年2回行い、地域の図書館利用も行っている。	○	今後はボランティア資源の検討へも取り組んでいきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向、必要性あれば、支援を行っている。。ホームでの生活が、困難と判断した場合や、経済的問題など、本人、家族の希望に応じて、特別養護老人ホーム等のケアマネ、居宅支援事業所などと話し合い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の状況や、意向に沿って、権利擁護事業の利用を行っている。総合的にまた、長期的ケアマネジメント等について、協働して行くよう努める予定。	○	本人の状況や、意向に沿って、権利擁護事業の利用を行っている。総合的にまた、長期的ケアマネジメント等について、協働して行くよう努めるよう取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活よりの、主治医への受診を希望にて継続させ、連携に努めている。家族の都合にて、職員が、通院の援助することが多い。また、法人の協力機関よりの往診も定期的に受け、訪問看護と同じく連携体制を図っている。病状が悪化された利用者についても、家族とも連携を図りながら、支援している。適時電話連絡にて、報告も行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時は、専門医への受診を行い、診断、相談、治療体制を取るよう支援している。専門医等の開催する研修へも参加している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回、利用者を把握した馴染みの看護師に訪問を受け相談・援助・指導を受けている。日常の健康管理やその時に応じた医療活用の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院が可能となるように、訪問看護師を含め情報交換・相談・連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、医師、訪問看護師との話し合いや、家族との話し合いの機会を設けていおり、職員間での、支援の方向性での話し合いを設けている。終末期での対応は、現状ないものの、そうなった場合の方針は、家族本人との話し合いを十分に行い、職員間にて共有し、対応したいと考える	○	職員全員で話し合う機会が、少ない為、機会の確保に努め取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や、終末期となった場合に備え、現状のホームでの対応について出来ない事や出来る範囲を見極めるための話し合いを職員にて行い主治医とともに、支援に取り組むように、今後に備えての検討を行い、家族との、話し合いを進め準備している。	○	職員全員で話し合う機会が、少ない為、機会の確保に努め取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ、可能な範囲で、見学を勧め、本人の意向の確認も可能な範囲で行い、家族、他施設、病院関係者とも、情報交換に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人介護事業部での、研修にて、プライバシー保護個人情報についての勉強会に必ず全員が参加を行い向上を図り馴染みの関係であっても、利用者を尊重するよう指導している。記録等の個人情報の取り扱いにも注意を払うようにし必要項目は、書面にて家族本人に了解を得ている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員より働きかけ希望を確認、思いを表せる関係作りに努めている。個々に合わせた対応、説明にて、自己決定を大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は、職員はあるものの、利用者には体調、精神状態や希望に合わせて生活して頂いている。それを支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日頃からTPOに応じた衣服の選択にも支援し、本人や家族の希望にて、可能な範囲で近隣の美容室に出向いている。おしゃれや身だしなみが出来るように、女性には鏡、櫛を持ってもらい、希望時は毛染めも提供している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食作りを一緒に行い、配膳、片付けも役割とされ、買い物にも毎日出掛け本人の好みにも配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好み体調により、お酒も提供し、梅酒やかリン酒作りも行い喫煙については、現状される方はおらず、希望時は、対応している。おやつに関しても、買い物に出掛けたときに、個人で楽しんで購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間ごとの誘導、日中夜間にも不快とならないように援助している。個々の身体、精神状況に合わせ、対応している。尿失禁が多くともおむつは、使用せずリハビリパンツ使用、トイレ誘導にて排泄可能となるように支援している。個々の排泄記録も記録している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴される方もおり、その方のペースにて入浴を楽しんで貰うように援助している。入浴好きな方には、近隣の銭湯へも出掛ける。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝をされる方もあり、その方や、そのときにお応じて対応している。夜間入眠困難な方には、軽食や、飲み物の提供、マッサージ、足浴等も試み、安眠できるように、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸が好きな方には、水やり、野菜を植えて収穫し料理したり、手芸が好きな方は、レース縁取りのハンカチ作りを楽しんでいただき、バザー出品に向け張り合いを持ち得意を活かした役割を持っていただいております。書道が得意な方には毎日の献立を書いて頂く等その方の生活歴を活かすよう努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や、能力に応じて、金銭管理をして頂いており、おこずかい帳も出来る方には、手伝いながら記載して頂いている。買い物に出掛け、自己にて買い物する機会の提供も支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時に出来るだけ時間を作り、散歩や、図書館、買い物美容室などへ希望の場所へ出掛けるよう支援している。自宅へ散歩経路としていく場合もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大衆演劇、観劇、外食、水族館、スーパー銭湯などお誕生日には、本人の希望する場所へ、家族、他の利用者、職員等と出掛けるよう企画支援している。自宅への外出や、外泊も家族へ働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、家族への電話を掛ける援助を行い、手紙の代筆も行う時がある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所時の挨拶はもちろん、湯茶の提供、日ごろの生活の様子を伝えられるように可能な範囲で行っている。家族に宿泊を受け入れ、宿泊用ベッドも準備している。利用者の馴染みの友人が、定期的に訪問して下さっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修にて、身体拘束排除について研修に必ず参加し、身体拘束はしていない。家族利用者へも契約書書面に、掲載し、説明を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室への施錠は、本人の希望があれば、安心提供の為認めているが、職員の都合では行わない。家族の希望、利用者の精神的安定、安全の為行う場合もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室内にて過ごされる方もあり、訪室の際は配慮している。ノックや、声掛けを行う様にし、日中、夜間に際しても、常時安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態に応じて使用して頂き、職員管理にて、必要時に、見守りのもと、使用して頂く場合もある。共用部分に関しては、危険なものは、鍵付の戸棚に収納し、管理している。 (薬・洗剤・刃物)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人での、事故リスク管理研修の機会を設け指導している。緊急対応マニュアルを作り、対応についても、ホーム内研修を行う等職員への指導をおこなっており、火災については、年2回に消防訓練を行っている。	○	職員全員が対応可能となるよう知識の向上、に取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の指導については、ホーム内勉強会にて行っているが、定期訓練はできていないので、応急手当普及委員の指導のもと、行う予定である。	○	職員全員が対応可能となるよう知識の向上、訓練に取り組む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方の協力を今後、町会を通じて働きかけようようにしたいと考える。利用者と共に火災訓練はおこなっているが、地震や、水害については、マニュアル作りを行いたいと考える。	○	マニュアル作成と、町会地域の方への協力の働きかけに取り組む
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族への起こり得るリスクに関しては、説明しており、家族よりの意向も伺うようにしている。職員間でも、制限の少ない生活を大切に対策を検討しているが、家族との、話し合いの機会が少ない為機会を設けていきたい。	○	家族との話し合いの機会を、適時設けるよう取り組む
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック観察、申し送り、異常時は、訪問看護へ報告、相談行い、主治医への報告連携に努め、受診等の対応にて、異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書の確認(各自サイン)を行い、薬についての、目的や副作用、用法、用量の理解に努め、確認しやすいように、近況分をカルテにファイルし、内服説明書経過ファイルも作成し、確認、理解しやすいように、している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による、精神的不安、食思低下を理解し、体操、歩行、腹部マッサージ、温タオルにて保温等試み、飲食に関しても、繊維の多い食材や、野菜の多い食事、水分摂取(野菜ジュース・スポーツドリンク)を促し必要時は、主治医に相談し、緩下剤等の処方をしてもらう等、予防対策をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケア、義歯洗浄を行うよう働きかけ、出来ないところを、援助している。危険のない方には、うがい薬の使用を行い、口腔衛生に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分・食事摂取量を記載し、把握している。栄養バランスについては、カロリー計算されたメニューを参考に、毎日の献立としている。水分量に少ない方には好みの物を提供し補給に努め、手作りの蜂蜜レモン水を作る等、職員の工夫も行われ、食事が進まない方には、間食の提供、メニューの工夫を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成、予防対応の取り決めがある。感染症予防委員会にて、定期的な情報提供なども行っている。インフルエンザに関しては職員、利用者共に予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾、まな板は、毎日消毒を行い台所の掃除も職員の業務として、毎日行われ、冷蔵庫の整理、掃除についても、定期的に行われている。食材は毎日の買い物にて調達され賞味、消費期限に気をつけ食中毒予防に努めている。職員の年2回の検便も施行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階玄関には、植木、花ベンチ等を置き、木製の表札を掛け、エレベーターホール玄関には、各ユニット玄関に手作りの表札を掛け親しみやすい雰囲気を作る努力をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度や設備、物品等家庭にあるようなサイズの物を使用し、季節の物、花、観葉植物、手作りの物で飾り付けし、居心地浴過ごして頂けるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、椅子、テーブルを置き、独りで、又は、気の合った方と居室以外でも過ごせるように、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族、希望に応じて、家具や、敷物、椅子、テレビ、棚、家族の写真、好きな演劇のポスターなど、出来るだけ自宅に有った物を持参して頂けるようお願いしているが、中には、しまい込む持参されない等にて、生活感に欠ける居室もあり、家族、本人と相談していきたいと考える。	○	馴染みの物品の有効性を家族に理解していただくよう、本人への安心、居心地の良い環境づくりに取り組む。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、毎朝居室も行っている。各居室にも小さいが換気扇があり、24時間作動させている。空調の温度はまめに調整し、外気に応じて、また本人の状況に応じて温度設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手摺、浴槽内の滑り止め、バスボード、ベットの介助バー、身障用トイレなど、を設置。居室内も、つたい歩きが可能なように、椅子等設置し、安全、自立を配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	名前が何とか読める方へは、表示を増やす、他の目印、植木を置いて居室の目印にする。衣類が解りやすく取り出せるように貼紙。排便確認の取れない方へは、貼紙等にて、忘れず知らせてもらう様になど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて、植木の水やりをされたり、洗濯を干すなど、職員が見守りのもと行っている。ベランダにて、外の景色を眺めたりされる方もおられる。外周りでは、園芸を楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の買物外出、毎食利用者と共に調理を行いお誕生日には個別に希望の企画、地域への参加に努め、運営推進会議に取り組んでいます。職員利用者の笑顔が多いホームです。